

はねっと 11

仙台市市民活動サポートセンター通信 ばれっと

“ばれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

もっと広げよう 話す楽しさ



多様な人と出会い弾む会話

手話サークル竹の子(以下、竹の子)は、毎週火曜日、青葉区の国見コミュニティ・センターを会場に、手話で話す場を開いています。特徴は、参加者が多様なこと。聞こえない人・聞こえない人・聞こえる人もいます。学校や仕事、暮らす場所も様々で、年齢も10～80代までいます。手話でのグルーptークや、ジェスチャーゲーム・手話しりとりなどレクリエーションで交流し、分からない表現はお互いに聞いたり、調べたりして一緒に学びます。運営メンバーで先天性聴覚障害者の荒井綾子^{あらい あやこ}さんは、「手話は教わるのではなく、話す中で覚えていきます」と話します。

コミュニケーション方法はたくさん

竹の子では、「日本手話」「日本語対応手話」、それらが混ざった手話が使われています。育ってきた環境や世代、聞こえの程度などによって、使う手話は人それぞれだからです。大切にしているのは、相手に合わせて会話すること。手話は、眉や口・肩の動き、目の開き方や視線を変えるだけで意味が変わるため、手の動きだけでなく顔の動きも重要な要素です。手話を覚えたいと参加

した聴者のメンバーは、「今まで人の顔を見て話すのが苦手だったが、手話を使ううちに相手の目や表情も見えるようになった。自分の気持ちも表現しやすくなった」と変化を話します。竹の子では、手話だけでなく、ジェスチャーや筆談などを駆使して、コミュニケーションをとっています。荒井さんは、「障がいがある人や自分とは違う特性を持つ人と、どうコミュニケーションを取ったらいいか分からないと悩むかもしれない。でも、それは関わったことがないから」と指摘します。竹の子で出会う相手と「話したい」という気持ちで、手話を覚えるモチベーションになっています。

「あなたと話したい」から広がる楽しさ

80代で聴者のメンバーは、「若い人と会うことができて楽しい」と、1つずつ手話を身につけています。聴者の高校生は、「将来、たくさんの人と話したいから」と力を込めます。20代のろう者にとっては、「会社では手話は使えないから」と、自分らしく話せる場になっています。荒井さんは、「手話ができるできない、障がいの重さも関係なく、1人の人間と向き合って会話ができる場所です」と竹の子への参加を呼び掛けています。



手話サークル竹の子

開催日時: 毎週火曜日19:00～21:00

開催場所: 国見コミュニティ・センター

年会費: 3,000円 見学体験2回目までは無料

問合せ: nyokki.takenoko.slc@gmail.com

Instagram
(@slc_takenoko2022) ▶





市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

お母さんたちに、自分自身を気に掛ける時間を

「幼い子どもを抱えるお母さんは、自分のことは後回しになりがち。でも、心と体はいっぱいいっぱいなんです」と話すのは、秋葉真紀子^{あきば まきこ}さんです。鍼灸師として働く傍ら、ヨガ療法士の伊藤さとみ^{いとう}さんと、卸町で「おろしまちほっこりタイム」を開いています。未就園児の親子を対象に、ツボを使ったセルフケアを学んだり、親子ヨガやタッチケアをしたりする時間を提供しています。毎回、1組から3組の親子が訪れます。秋葉さんと伊藤さんは、「お母さんたちが、じっくり自分の心と体に向き合って、ストレスを発散したり、自分を労わったりするお手伝いがしたい」という思いで、2023年10月に活動をスタート。2人とも、小学生や大学生になる3人の子を育てるお母さんです。秋葉さんは、子どもたちがまだ幼かった頃の自身を、「もみくちゃになりながら毎日奮闘していた。今思えば、新生児の感触や1歳児の表情、それに対する自分の感情など、あの時にしか感じられないものばかりだった。なのに、ちゃんと味わう余裕がなかった」と、振り返ります。余裕は、自分自身の心と体に目を向けるところから。秋葉さんは、「子育てする環境も価値観も時代と共に変化していますが、大変なのは

同じ。大変な時期を、今しか感じられない感覚を存分に味わっているんだ！と、親たちが捉えることができるよう、これからも場づくりをしたい」と、意気込んでいます。



おろしまちほっこりタイム

日時：毎月第2・第3金曜日 10:30～11:30
場所：武山道場（仙台市若林区卸町1-3-1）
参加費：1,000円
連絡先：090-6380-0906（秋葉）



▲Instagram
@HOCCORI1009



サポセンを活用した人たちから「私のあしあと」

大好きなまちへの関わり方を探して、一歩踏み出す

2022年に仙台に越してきました。七夕まつりや青葉まつりなどの季節行事や日々の暮らしの中で、活気と人の暖かさを感じ、仙台というまちにもっと関わってみたいと思うようになりました。まずは色々試してみようと、一番町のゴミ拾い活動に参加。緊張しましたが、終わってみると、まちが綺麗になり清々しい気持ちと同時に、誰かの役に立てたのかもしれないと感じました。地域に根差し、誰かのために自分ができていることをしていきたい。次なる一歩も見えてきました。（仙台市在住 高橋さん 女性）

高橋さんが参加した、サポセン主催企画「ちょっと。ボランティア」の様子 ▶



▲NPO法人green bird仙台チームと、街のゴミ拾い活動をしました。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 11月13日（水）、27日（水）

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

（指定管理者：特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター）

発行日 2024年11月1日

デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

